

町会長研修会 と意見交換会

身近な問題をテーマに学ぶ

共同募金、日赤社資では意見続出

18年度の地域協議会ごとの「町会長研修会」と「町会長と市町連役員との意見交換会」を10月13日(金)から11月11日(土)にかけて別表の通り開きました。

地域協議会名	開催日	会場	参加者	研修テーマ
南部	10・13(金)	労働福祉会館	55人	「高齢化と地域社会について」
中部	10・17(火)	古川市民センター	35人	「災害時の救命に必要な応急手当について」
東部	10・25(水)	教育研修センター	48人	「中高年からのオシッコの話」
北部	11・7(火)	油川市民センター	26人	「認知症の現状と対策について」
西部	11・11(土)	沖館市民センター	56人	「新ごみ処理施設の整備計画について」

研修会は、各地域協議会が地域に関することや地域社会での身近なことなどをテーマに取り上げて今後の計画や日常の対応などを学びました。

引き続き行われた意見交換会では、町会・市町連の運営等に関するに加え、今年度は共同募金と日本赤十字社資の集金協力に関して町会から様々な声が寄せられていることを踏まえて、県共同募金会と日赤県支部にも出席依頼し意見交換を行いました。

いずれの地域協議会でも共同募金と日赤社資についての意見が多く出されましたが、主な意見として、共同募金に関しては「寄付であるはずが、強制的でそのやり方に疑問がある」、「目標額をい



町会連合会役員との
意見交換会

かにして扱うか頭を痛めている」、「集金方法を検討願いたい」などが出されました。

日赤社資に関しては、「郵便振替・金融機関でも納入できるようにしてほしい」、「大きな事業所からできるだけ多く集め、地区の目標額を少しでも減らしてほしい」、「日赤社資は年々集金額が少なくなり、対応に苦慮している」などの意見がありました。

また、町会・市町連の運営に関しては、「カセットボンベの専用容器を業者に箱ごと持っていかれるので指導してほしい」、「カセットボンベの専用容器に表示するステッカーを全町会に配布すべきである」、「街路灯の灯管交換を従来の業者に発注できるようにできないものか」、「冠婚葬祭合理化運動のチラシの内容に疑問がある」、「町連だよりに市政懇談会の内容を詳しく掲載するべきである」などの意見・要望が出されました。

務局（電話734-2584）に照会いただければお答えすることにしてしています。

また、いただいた意見・要望については、今後各部会で検討し、事業に反映できるものは、反映させることにしています。

おめでとうございます

18年度市表彰 4町会長が受賞

18年度の青森市表彰が10月19日(木)に青森国際ホテルで行われ、町会長として15年以上勤務し、市勢発展に功績があった次の4氏が受賞しました。

佐藤 久雄（奥野第一町会長）

中川 勝（八ツ橋ニュータウン町会長）

成田 雄一（中新町町会長）

野坂 登（西金沢町会長）

町会の実態調査まとまる

各町会長に報告書送付

昨年10月に市町連の6部会が町会の実態調査を行いました。372町会中319町会（回収率85.8%）から回答がありました。

その集計・分析作業が終わり、このほど報告書として取りまとめ、各町会長に送付しました。

調査結果は地区連合町会ごとに集計・分析し報告書に取りまとめました。今後の町会活動の参考にさせていただければと願っています。

活用に当たっては地区連合町会ごとの取りまとめとなっていますので、個々の町会の状況を知りたい場合は、お手数をかけますが、町会連合会事

除排雪事業
計画説明会

市民の窓口相談Eメールでも

道路の除排雪を13km増やす

青森市の平成18年度除排雪事業実施計画説明会が11月16日(木)柳川庁舎で開かれました。町会連合会から正・副会長、常任理事、地区連合町会長ら50人が出席し、2年続きの豪雪を踏まえた除排雪体制など多くの点で市の考えをいただきました。

初めに、市から除排雪事業実施計画の概要説明がありました。

主なものは◇積雪深が100cmを超え、さらに増加する見込みの場合、除排雪対策本部から「豪雪対策本部」、150cmを超えてさらに増加する見込みの場合は「豪雪災害本部」と体制を強化◇道路(幹線・工区・狭隘)の除排雪は、昨年より13.7km多い延長1,319.19km◇パートナーシップによる地域コミュニティ除排雪制度、スクラム排雪助成制度◇17年度の除排雪経費23億3,000万円(うち青森地区21億6,100万円弱)◇昨年度市に寄せられた相談件数は11,779件。その85%が除雪関係。今冬はFAXやEメールでも相談を受け付け



除排雪体制について質問する出席者

る。

このあとの質疑では、「歩道にはみ出た違法建築物の2階屋根から直接歩道に落雪があり、人身事故の恐れがある」「除排雪作業の際、監督者がいなければいけないが、いることがない。除雪車が来ると玄関前に雪がたまってしまう」「除排雪委託業者欄に元請けは記載されているが、実際に作業する下請けの会社は分からない」など多くの要望や意見が出されましたが、市では問題点の掌握とともに、業者を指導するなど対応の方向を示しました。

道路除排雪事業への指導徹底と路上放置車の取り締まり強化を

市長と警察署長に要望書

市町連は、降雪期を前に除排雪請負業者の徹底指導と路上放置駐車を取り締まり強化対策について11月1日(水)青森市長に、11月2日(木)青森警察署長に要望書を提出しました。

◇道路除排雪事業に関する要望(青森市長へ)

1. オペレーターの指導徹底について



- ・道路除排雪作業を請け負うすべてのオペレーターに市の順守事項を守らせること
- ・作業を請け負うすべてのオペレーターに担当する町会の道路状況等を事前に調査させること

- ・地区連合町会主催の除排雪説明会には、地区を担当するオペレーターを必ず出席させること
- 2. 交差点付近の雪盛りを解消すること
- 3. 県道と市道交差点の段差を解消すること
- 4. 雪処理条例を守るよう監視と適切な措置を講じること

◇路上放置駐車を取り締まり強化に関する要望

(青森警察署長へ)

- ・町会と連携し、路上放置駐車を取り締まりを強化すること

なお、青森警察署は要望に応え、町会と連携した対策として路上放置駐車防止の徹底を図りながら、呼びかけ文書=写真=を出しましたので、市町連は12月6日(水)に各町会長に每户回覧を依頼しました。



第29回
町内女性
の集い

「いざという時の対応は」

119番通報など実際に体験

市町会連合会女性部会は、昨年10月31日(火)午後1時からアピオあおもりで「第29回町内女性の集い」を開催しました。テーマは「いざという時の対応は」。防災、救急救命の機運が高まっている折、大きな関心呼びました。

葛西房子女性部会長あいさつのあと、佐々木誠造市長があいさつに続いて情報を提供。スライドを用いて、市内の火災発生と死傷者の状況を説明し、住宅用火災警報器の有効性を外国の例もあげながら強調しました。

この中で、青森市内の自主防災組織が372町会中50町会と15.3%にとどまり、全国の64.5%に比べかなり低いことから今後の組織に期待し、日ごろの訓練がいざという時に大いに役立つと説きました。

引き続き、消防本部係員による住宅用火災警報器と消火器の使い方、119番電話のかけ方、心肺蘇生法の仕方、AED(除細動器)の使い方についての説明と出席者も加わった実技演習に入りました。

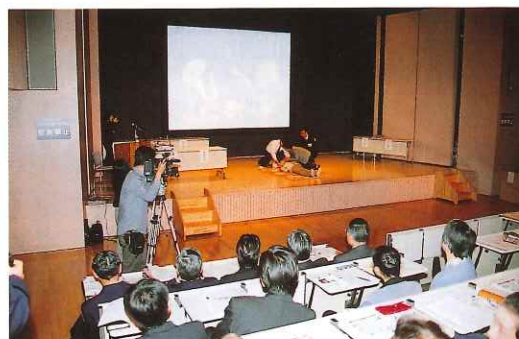
心臓マッサージにも挑戦

119番の通報体験では、初めに佐々木市長が火災通報を行ったのに次いで、出席者2人が火災通報、さらに2人が救急通報を行い、見事な実演に会場から拍手が送られました。

心肺蘇生法では、倒れた人間の心臓が止まっている場合、人工呼吸、心臓マッサージを行うとともに、反応がなければ119番で助けを呼ぶことが必要。除細動の必要な状態から1分経過すると救命率が7～10%、4、5分では40～50%下がる



スライドを用いて
情報提供する佐々木市長



心臓マッサージの指導を
受ける出席者

といます。

消防本部の係員が胸を30回押す心臓マッサージを披露したあと、出席者の女性が人工呼吸、心臓マッサージ、心臓の痙攣状態(細動)を取り除くAEDの使用に、汗だくになって挑戦し大きな拍手を浴びました。

◇119番の通報要領＝「火災の通報」か「救急車を呼ぶ」のか明確に伝えること。1秒を争うことでもあり、住所を正確にいい、火災なら近くの目標物、一般住宅の火災か、ビル火災か、また車やごみが燃えているのかを伝えることが大事。それによって、消防車の出動台数が違い、救急の場合も傷病者の状態、人数などによって出動台数が違ってくるといいます。

町会への委託料や奨励金

現行のまま据え置きを

会長が市長に要望書

佐藤久雄市町連会長は、10月24日(火)に「町会支援制度補助等業務委託料」と「交通安全決起大会及びパレード報奨金」を現行のまま据え置くよ

う佐々木市長に要望書を提出しました。

これは、市が委託料等の大幅な見直しを行うことになっていることと、市町連の運営全般の見直しを検討する「組織及び運営のあり方検討委員会」の意見を踏まえ、今後の事業運営に当たって現行額を確保しなければ事業に支障が出るとの観点から要望したものです。

理事・部会員
研修会

共同募金・日赤社資と地域の関わり

地域福祉増進のために配分 共同募金で
成田氏
県民一人ひとりの浄財頼り 日赤社資で
一戸氏

町会連合会は11月21日(火)、新町のアラスカに青森県共同募金会事務局長の成田順一氏と日本赤十字社青森県支部組織振興課長の一戸秀彰氏を講師に迎え、「共同募金・日赤社資と地域の関わりについて」と題して18年度の理事・部会員研修会を開きました。

共同募金と日赤社資募集に関してさまざまな声が聞かれるため、その疑問を解き、さらに認識を深めることを狙いに今回のテーマに取り上げたことを、佐藤久雄町会連合会会長があいさつの中で紹介し、研修会に入りました。

共同募金について、成田氏は10月1日から始



共同募金を説明する成田氏

まった赤い羽根から話し、目標額2億1千万円に対して11月10日現在の集計で達成率60%弱、伸び悩んでいると説明。青森の関係では目標額4,214万円をお願いしていることや、歳末助け合いに触れながら進めました。

さらに「社会福祉法の抜粋」などの資料を基に、共同募金自体は各都道府県が独立した法人でやっていること。配分は地域内福祉の増進を図るため民間に対して行い、新事業を対象に3年たった後は自前でやれという方式だと紹介しました。

質問で出された目標額の達成について、募金会の考え方をただしたのに対し、町会の実績は分からないが、地区の実績表では100%いかないところも現実にはあると答えていました。また10年間も120%以上を続けているのに、地域住民にはあまり知らされていない。一生懸命やっているところを引っ張っていくということになれば、もっと認識が出てくるという要望も出されました。

次いで一戸氏は、赤十字が1859年スイス人の



日赤の活動を紹介する一戸氏

アンディ・デュナンによって創設されたことから説き起こし、日本の場合も1877年西南戦争勃発の最中、佐野常民が動き出して日赤の前身・博愛社が設立許可されたことを紹介。

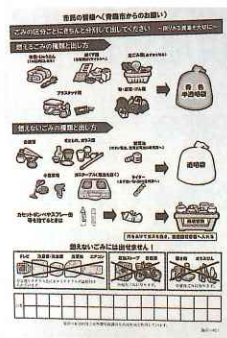
赤十字の事業は、「災害や戦争で苦しんでいる人々の救護」をはじめ、地域と連携した多くの事業を行い、血液事業、救護看護師の養成もその一つと述べました。活動のためには事業資金が必要で、「県民一人ひとりからいただく貴重な浄財でまかなっている」といい、毎年、2月に増強運動を行っています。

これから、「世界平和と人類の福祉のために県支部としても、皆様のご支援ご協力をいただいて頑張っていきたい」と締めくくりました。

ごみ分別の徹底呼びかけ

町会連合会

ごみの分別と出し方は「清掃ごよみ」や「広報あおもり」などで周知を図っていますが、残念ながら未だに乱れがひどい状況にあります。町会連合会では、全町会へのチラシ回覧を通じ、ごみの分別が徹底されるよう市民に呼びかけています。



自主防災組織が 26団体50町会に

青森市内の町会を単位とした自主防災組織は、昨年5月に篠田町会が結成したことにより26団体50町会となりました。

青森市の場合、結成率が15.3%で全国的にもかなり低いレベルにあり、一層の防災意識の高揚が望まれています。

—— 西本町町会 ——

昨年2月に防災部組織

防災訓練すでに2回行う



消火器の使い方学ぶ参加者

西本町町会は昨年2月15日、防災部を立ち上げ、4月16日に市危機管理室の指導を得て柳川地区青い海公園で第1回防災訓練を実施しました。

はじめに防災用器材の説明を受け、消火器の使用方法和初期消火訓練、担架の組み立て、負傷者の搬送訓練などを行い、火災に対する認識と対応を学び、防災部長（町会長）以下58人の体制が確立しました。

馬渡節雄防災部長は「自分たちの住む地域は、自分たちで守る」を基本理念に、「安心安全なまちづくり」のため今後も連携を密にし、実効ある

信号機、交通標識などの 設置要望で現地調査

交通安全防犯部会

交通安全防犯部会は9月26日から28日までの3日間にわたって、町会長、交通安全協会長、PTA会長、市議会議員らから出されている信号機、交通標識、横断歩道等の設置並びに横断歩道の段

差解消（バリアフリー）の要望について、警察署員、市役所関係者ととも43カ所の現地調査を行いました。



大湯町会老人部

不審者から児童守ろう

登下校時に指導・監視

大湯町会の児童は、三内小学校と浪館小学校の2校に分かれて登下校していますが、全国的に伝えられる不審者に対しては父兄ばかりでなく、町会としても神経を尖らせています。

そこで大湯町会老人部では、不審者対策の一助として児童の指導・監視に当たっています。その服装も多くの子供たちの目に付き、周りの警戒心を高める狙いから、学校配布の腕章だけでなく、町会名入り黄色のジャンパーを着て、横断旗と笛を持って危険区域で監視を行っています。

特に不審者に対する認識を統一し徹底を図るため、町会では老人部、子供会と話し合い、活動の要項についても三内小学校、浪館小学校、三内丸山交番に連絡し、協力をお願いしています。

開始して3カ月が過ぎ、各所から温かい激励の言葉が寄せられ、子供たちからも親しみのあいさつをされています。「今後も、子供たちの安全確保のため続けていくことが大切だと思います」と町会では言っています。



目を光らす老人部の人たち

これら調査結果は、「必要」「不要」「要検討」の3段階で評価し、必要な個所については青森警察署長から県公安委員会へ上申され、県内各警察署長からの上申と県予算との総合判断で設置が決定されるとのことです。



収集場所に花ポット ごみ出しマナー向上へ

町内を国道280号が通っているため、他町会の人が車で通勤途中、ごみ収集日でないのに置いていきます。また、町内にはアパートが多く、燃えるごみを収集日前から出すため、ごみ置き場はカラスが散らかして散々。燃えないごみの収集日には、カセットボンベやスプレー缶に穴を開けずに出すため、収集車は持っていかず放置されたままでした。

沖館第二町会

そこで、環境衛生部長はじめ役員の皆さんがいろいろ考え、ごみ収集場所に花壇を作ったらどうかということになり、とりあえず「花ポット」を数個置くことにしました。まだまだ完全ではありませんが、以前から見るとごみ出しルールが守られてきました。花に心を癒され、環境への配慮が出てきたのでしょうか。これからもマナーの悪いところから順次ポットを増やしていきたいと考えています。

その後、沖館中学校の地域奉仕活動の一環として、ごみ収集場所付近の清掃を行っていただきました。



お あ ほ の 自 慢



盆踊り大会続けて15年 町民の融和・親睦図る

当町会は、昭和59年の住居表示で野尻平岡から妙見となった新興住宅街です。現在は妙見第一町会、第二町会、第三町会、第四町会で構成していますが、平成の初めに町内の有志が集まって、町民の親睦を図ろうと始めた盆踊りが現在の基礎になっています。

盆踊り大会を主催するようになって昨年で15年。その年々の町会長や役員、町民の努

力により、一度も休むことなく続いています。

大会は毎年8月18・19日と定め、子供たちの時間に合わせ、午後8時30分で終了しています。会場は町内企業の広場を借り、照明機材も町内の電気店が快く引き受けてくれ、町民一丸となり責任ある運営をしています。

全員に参加賞を差し上げ、ここ数年は参加者が増加傾向にあります。町民の願いである融和・親睦とともに、福祉の向上に資するものと確信しております。

継続は力なりという言葉がありますが、今後も町民親睦のため、開催してまいります。

妙見連合町会



頑張っています

子どもねぶた運行45年

子どもねぶた運行は、昨年45年の節目を迎え、これを記念して油川運行、青森運行にも出場しました。継続は力なりと言いますが、伝統を築いてくれた多くの先輩や仲間のお陰です。手作りのねぶた踊りも好評で、油川市民センターまつりにも出場要請がありました。

また、農家から借りた田んぼや畑で米、大根、ジャガイモを作り、油川市民センターまつりで子どもたちと一緒に販売し、子ども会の活動資金としています。連合子ども会活動

新生町子ども会



はもちろん、地域諸団体の活動にも積極的に参加し協力しています。これらの単会活動(町会も含む)や連合子ども会・諸団体との活動を合わせると、その活動は廃品回収、清掃活動を含め21項目にも及びます。

カラスの被害対策

黄色ごみ袋を実験

明確な効果なし

全国的にカラス被害防止対策として注目されている特殊加工の黄色ごみ袋の使用実験を、市と町会連合会が共同で7月から10月までの4カ月間



カラスに破かれた黄色ごみ袋(花園町町会)

行った結果がこのほどまとまりました。

実施は、市内5町会9カ所の家庭ごみ収集場所を使い、黄色袋とその他の袋(市指定の青袋)をネットを被せない野積状態で行いましたが、表に掲載した通り、効果の確認はできませんでした。

この結果から、実験期間を長くするとカラスの学習によって、さらに黄色袋でも被害の多くなることが予想され、網目の小さなネットや遮光ネット等を被せることが被害防止に当面有効な対策かと考えられます。

今後、市と町会連合会が対応を協議することになっています。

実町会	験名	ごみ収集場所の数	袋の種類			備考
			袋の種類	使用数	被害数	
山田町町会	1カ所(30世帯)		黄色袋	982枚	0	カラスの姿があまり見られなかったため、黄色袋の被害はなかった
			その他袋	128	0	
大福町町会	3カ所(60世帯)		黄色袋	870	0	
			その他袋	3,809	20	
上三上町町会	1カ所(50世帯)		黄色袋	793	6	被害は少ないものの、継続的に被害が出た
			その他袋	1,250	21	
港町町会	3カ所(30世帯)		黄色袋	733	8	7月～9月までは被害はなかったが、10月になってカラスが学習し、被害が出たものと思う
			その他袋	4,147	87	
花園町町会	1カ所(50世帯)		黄色袋	476	48	7月～被害が出たので黒遮光ネットで防止、8月も被害が続くので8月7日をもって実験終了した
			その他袋	182	3	
合計	9カ所(220世帯)		黄色袋	3,854	62	黄色袋がその他袋よりも被害率が高かった
			その他袋	9,516	131	

編集後記

12月2日から4日にかけて断続的に降った雪は、青森市で58㌢。12月上旬に50㌢を超えるのは21年ぶりとかで、「暖冬少雪」を期待していた市民を大いに慌てさせました。

何しろ、除雪がままならず大通りも自動車がノロノロ運転。小路に至っては全く除雪車が入らず、何日か後ようやく除排雪が行われたほどです。

その後、好天が続き大助かりしたものの、冬本番はこれから。除排雪は、市の実施計画通り遅滞なく行われるよう願わずにおられません。